

H29 児童意識調査の結果について 全体の考察

設問の()内は1～3年のもの

設問1	正しい言葉づかいをしていますか？
全体の傾向	「できた」が46%であるが、「だいたいできた」を合わせると、95%である。
設問2	時間を守って行動していますか？(時間を守って行動していますか？)
全体の傾向	上学年では、「できた」が64%で、「だいたいできた」を合わせると、97%である。下学年では、「できた」が88%である。
設問3	大きな声ではっきりとあいさつ・返事をしていますか？(元気のよいあいさつをしていますか？)
全体の傾向	上学年では、「できた」が43%で10の設問の内2番目によくない。「だいたいできた」を合わせると、92%である。下学年では、「できた」が76%で、5つの設問の内、最もよくない。
設問4	宿題や復習、自主学習をしっかりやっていますか？(宿題を忘れずにやっていますか？)
全体の傾向	上学年では、「できた」が51%で、「だいたいできた」を合わせると、94%である。下学年では、「できた」が90%である。
設問5	授業中、先生や友だちの話をよく聞いて学習していますか？(授業中、先生の話をよく聞いていますか？)
全体の傾向	上学年では、「できた」が64%で、「だいたいできた」を合わせると、97%である。下学年では、「できた」が86%である。
設問6	正しいと思ったことを進んでやっていますか？
全体の傾向	上学年では、「できた」が55%で、「だいたいできた」を合わせると、97%である。
設問7	友だちのよさを見つけたり、友だちとなかよくしたりしていますか？(友だちとなかよくしていますか？)
全体の傾向	上学年では、「できた」が61%で、「だいたいできた」を合わせると、96%である。下学年では、「できた」が93%で、5つの設問の内、最もよい。
設問8	先生に勉強のことや困ったことを話していますか？
全体の傾向	上学年では、「できた」が32%で昨年度より4%増、「だいたいできた」を合わせても75%。10の設問の内、最もよくない。
設問9	家の人に学校のことや友達のことを素直に話していますか？
全体の傾向	上学年では、「できた」が63%で、「だいたいできた」を合わせると、92%である。
設問10	町内や育成会、学校の行事に進んで参加していますか？
全体の傾向	上学年では、「できた」が51%で、「だいたいできた」を合わせると、88%である。

☆学校全体で取り組むこと

1 大きな声ではっきり挨拶することの指導の徹底

昨年度と傾向はかわらず、上学年92%以上の児童が「できた」もしくは「だいたいできた」と答えている。下学年は「できた」が76%、「だいたいできた」が24%である。

しかし、他の設問と比較すると、上学年では、「できた」が43%で10の設問の内2番目によくない。また、下学年では、「できた」が76%で、5つの設問の内、最もよくない。また、あいさつについては、児童指導の毎月の目標ともなっているのに、「できなかった」と回答した児童が「だいたいできた」となるような見通しを持ちつつ、『大きな声で(相手の目をみて)はっきり挨拶すること』を重点的に指導していきたい。

各学年から挙げられた具体策のうち、

①教師の率先垂範。「まずは、教師から声をかける」

②具体的な場を想定したシミュレーション・ソーシャルワークトレーニングの実施

具体的な場の指導として、今年は、特別活動(委員会による自主性を重んじたあいさつ運動、バスの乗降時、来校者へ)

など、様々な場面を道徳的実践の場としてとらえ、指導をする。朝の会などでの、指導。(なぜ、あいさつの意味を繰り返し伝えていく)

③賞賛やあいさつ貯金などあいさつの意欲付けの工夫

児童が自らを振り返ることができるような計画的な実施。

2 児童の悩みや不安や困り感に気づき、個の把握と即時対応に努める

上学年のみの回答である。「できた」が32%(昨年度は28%)、「だいたいできた」を合わせて75%で10の設問の内、最もよくない結果である。その子を取り巻く環境や家庭の教育力の未熟さが、困難さを生じさせている。厳しい家庭環境で育っている児童が、本校には少なからず在籍している。この地域性を踏まえ、目指す教職員像は、「常に子どもに寄り添い、子どもの心を感じ取り支えることができる教職員」となっている。

そのためには、

①健康観察・机間指導・ノート指導・共遊・日記指導などによる把握

現在、教職員は休憩時間も惜しんで児童理解、児童対応に努めているが、今後も、感性や観察力を大切にして、個を看取る実践を積み重ねていく。

②子どもが担任外にも相談できる場を工夫する。教育相談室の整備。(情報をあげ、共有化する)

相談の内容により中心となる担当はいろいろだが、組織として児童を育てるという認識を改めて確認し、情報の共有化を図る。

③目的を意識した教育相談、保護者との綿密な連携、普段からの声かけ(賞賛、気にかけていることの伝達など)、調査の活用などを実践する。